

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会科】

1. 対 象 1 年生

1 年生は 2 クラスのため、入学前からお互いのことを理解しており、発言しやすい雰囲気である。しかし、基礎知識が身に付いている生徒は少なく、習熟度に個人差が見られる。総合の学校テーマが SDG s なので、持続可能な開発についてはイメージしやすくなっている。

2. 単元名 「世界の諸地域 南アメリカ州」（全 4 時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・南アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、南アメリカ州の地域的特色を理解できる。 ・南アメリカ州で森林が減少している背景を、森林開発の状況を踏まえて理解できる。
思考力、判断力、表現力等	・南アメリカ州において森林が減少している背景を踏まえて、持続可能な南アメリカ州の開発へむけて多面的・多角的に考察し、表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	・南アメリカ州の探究課題の解決にむけて、主体的に追究することができる。

4. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い

2030 年に、南アメリカの開発と環境保護は両立できているのか？

考えるための材料

【導入】

リオオリンピックの開会式の映像やアマゾンの開発の比較写真、SDG s 15「陸の豊かさを守ろう」の達成状況や取り組み事例（日本世界 18 位）

【展開】

- ・アマゾンの開発について「農牧業・鉄工業・都市と貧困・文化・歴史」の 4 つの視点からフィッシュボーン図にまとめる。
- ・アマゾンの開発について、賛成か反対かのディベートを行い、開発のメリット・デメリットを考える。

【まとめ】

授業カードに単元課題のまとめを自分の言葉で記入し、発表する。

想定される活動

【農牧業】 ・アマゾン川流域の大規模な森林伐採。牧場や大豆、さとうきびの開発のため道路や農場を作る。 ・世界有数の農業国・輸出国になった。	【鉄工業】 ・石油・鉄鉱石など鉱産資源が豊富で、日本も多く輸入している。 ・工業化に伴い、南アメリカの各国がモノカルチャー経済から脱却している。	【都市と貧困】 ・ブラジルの労働者は工場へ働き、人口が流出し、都市と農村の貧困がさらに広がる。 ・経済格差によってスラムが拡大している。	【文化・歴史】 ・スペインやポルトガルの植民地になった歴史がある。 ・焼畑農業が伝統的な生活で、焼畑農業は砂漠化の原因とも言われている。
メリット→経済発展 ・食料エネルギーの増産（輸出増） ・道路建設（輸送拡大）		デメリット→環境保護 ・環境破壊、熱帯雨林の減少による貴重な動植物の絶滅、地球温暖化の進行（二酸化炭素の吸収量の低下）	

・農業生産の拡大（大豆・牛肉など）モノカルチャー経済の脱却 ・バイオエタノールの開発、石油を使わないエネルギー、再生可能エネルギーの活用 ・鉱山開発（鉄鉱石の輸出増） ・工場による雇用の創出	・都市の貧困拡大（機械を使った大規模農業による失業者の増加。職を求めて都市に移動する） ・焼畑農業による土地の養分低下 ・牧草地がさとうきび畑になるため農薬や肥料による環境問題
--	--

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

思考ツールのフィッシュボーン図を用いて、南アメリカ州の開発と環境保護についてまとめる。その際情報共有アプリ（ICT）を使用し、共有しやすくする。

ディベートは短学活で行っている「コミュニケーション活動」を通してペアで討論する。討論の最後には「保全に向けた取り組み」をグループで考えて、発表する。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

両立は可能である。南アメリカのブラジルではアマゾンの熱帯雨林が畑や工場、高速道路などに変化したため、森林が減少し、絶滅の危機にある生物もいる。農業や工場での生産で、最新の技術を導入して効率の良い方法を広め、環境保護も同時に行うことで、持続可能な開発を行い、今後も経済成長を続けながら、環境を保護することができる。

両立できない。SDGsは2030年に達成すると言っているが、各国の取り組みや文化の違いがある。南アメリカはこれからも開発が進行し、地球温暖化も深刻になる。しかし、日本ができる支援など方法を考えていきたい。

【参考文献】 単元を貫く学習課題でつくる！中学校地理の授業展開&ワークシート （川端祐介 明治図書 2019）